

なでしこ通信



令和4年6月10日発行

vol.180

三重県済生会明和病院 なでしこ 〒515-0312 三重県多気郡明和町大字上野435

TEL・FAX : 0596-53-0010 Eメール : nadeshiko@meiwa-saiseikai.jp ※重症心身障害児(者)に特化しているため旧名称を記載しております

おめでとう! 小学校入学式



4月11日(月)、度会特別支援学校の入学式が行われました。今年度はなでしこに入所しているいくとさんがピカピカの1年生となります。いくとさんは医療的なケアが多いこともあって、学校の先生に来てもらい、なでしこで入学式を行うこととなりました。また新型コロナウイルス感染症予防として

入学式を屋外で、安全にお祝いできる環境にも配慮しながら行うこととなりました。

いくとさんは入学式のために両親に買ってもらった衣装に着替え、なでしこの中庭の入学式会場へ。緊張感が漂う中、入学式が始まりました。いくとさんは初

めてのことは苦手な面がありますが、いつもと違う雰囲気の中でも堂々とした姿です。校歌斉唱では学校の様子がわかるような動画付きの校歌を担当の先生がいくとさんに見えやすいようにタブレットで見せてくれました。校長先生は楽しい学校生活の話や、たくさんの友達がいてみんなで一緒にいろん

な経験をしていきたいと思いますと話してくれました。

これから学校で先生と新しいお友達と楽しい生活が始まります。私自身もとても楽しみです。いくとさんが楽しい学校生活が送れるようにこれからもご家族と協力してなでしこ全体で精一杯サポートしていきたいと思います。

(指導員：倉井)



もうすぐ1年生セレモニー



いくとさんとしんたさんはこの4月から小学生になり、そのお祝いとして、「もうすぐ1年生セレモニー」を3月におこないました。

なでしこでの成長の記録をスクリーンで映し、幼い頃の可愛いらしい姿をみんなで見ながら、大きく成長したことを嬉しく感じました。

スライドショーの後は寄せ書きや写真をプレゼントしました。春夏秋冬のいくとさんの写真が花束のように作られているもの、ランドセルを背負ったしんたさんが、みんなからのメッセージの書かれた風船を握りしめているもので、担当職員が心を込めて作りました。

最後に、「おもいでアルバム」「はじめの一步」をみんなで歌いました。初めて立位台で立った日の事、楽しかったゆらんこやシャワーボールなどの活動、大好きなカリン

バの音色、何度も読んでもらった「はらぺこあおむし」の絵本。なでしこでいろんな思い出ができましたね。今度は小学校での楽しい思い出をたくさん作って下さいね。

(指導員：齋田)



楽しい外出行事

～春を探しに～



4月になり桜が咲き誇り、なでしこの窓からは春を感じられるようになりました。

今月の外出行事は大淀の海岸、サンアリーナの花ひろば、宮リバー度会パークと外をめぐって楽しむ3コースです。

「春に三日の晴れなし」という言葉があるように雨を心配し天気予報とにらめっこをしていましたが、そんな心配はご無用！春の爽やか

な風に揺れるカーテンに手を伸ばされる方、久しぶりにみる道沿いの田園風景や音を感じて見回す方と様々な利用者さんの様子がそこにはありました。期待に胸を膨らませ到着すると花桃やレンギョウ、ネモフィラ、菜の花と色とりどりの季節の花に囲まれ、景色を見ながら散策やおやつタイムを楽しむことができました。

暑いほどの陽射しに顔を赤くしながらも自分で日傘を持つとさされる姿もあり、思わず笑みがこぼれました。適度な疲労感とポカポカ陽気に、帰りのバスの中では寝息が聞こえてきました。コロナ禍が



続いていますが感染症対策に十分配慮しつつ準備を進め、バスに乗るための練習を行うなど多職種で協力し合い当日を迎えられたこと、また利用者さんの笑顔や楽しむ様子を見られたことを嬉しく思いました。これからも日々の生活の中でもこのように楽しく過ごしていただけるような関りができたらと思います。

(看護師：乙部)



端午の節句

～のぼれ!こいのぼり～



5月2日(月)に端午の節句の行事を行いました。今回は行事の日までに各自が思い思いの鯉のぼりを作りました。鱗はスタンプを使ったり、色々な模様の折紙を貼ったりしました。

そして個々の鯉のぼりとは別の

大きな鯉のぼりを作りました。大きな鯉のぼりを高いところに飾り、自分の作った鯉のぼりを紙皿のマジックテープに貼り付け、滑車を利用し登っていく原理で職員と一緒にひもを引っ張り、鯉のぼり上げていくというものです。利用者さんと職員の息が合うと、早く早く登っていきます。そして高いところには大きな鯉が待っていてくれます。みんな自分の鯉が上がると大きな歓声が上がりました。

今では庭に鯉のぼりが上がる風景も少なくなりましたが、

小さいながらも通所の中で上げる事ができました。最後に鯉のぼりの歌を歌い、行事を締めくくりました。

(通所看護師：渡邊)



天井リフト増設

現在、利用者の高齢化による身体の変化と職員数の減少、また年齢による職員の腰痛や転倒のリスクが高まってきている現状があります。

先に設置した、7号室前の天井リフターの使用の慣れによって、業務の効率もそれほど低下することなく、利用者が安全に自室からの移乗移動が可能となったため、6号室前にも設置することになりました。

天井リフトは利便性がよく簡易で安全に使用できるので、介助用スライディングシートなども併用して積極的に使用してもらいたいです。実際に使用する職員からも、「天井リフトは上下左右に動きがスムーズで使いやすく、利用者も職員も安心安全に生活できています」と声が上がっています。

なでしこは、骨折ゼロ・腰痛ゼロ

を目指します！！

(リハビリ主任：東久保)



なでしこに咲く季節の草花



さくら



ツツジ



ヒメジョオン

～保護猫、入居者に癒し～ 殺処分ゼロを目指して

岩手県一関市弥栄に知的、精神障害者が、保護された猫と暮らすペット共存型のグループホームがある。動物との触れ合いで、障害者との生活の質を向上させると共に、保護猫を引き取ることで殺処分を減らす、人間、動物双方に優しい取り組みが進んでいる。幼少の頃から猫のいる家庭で育った男性は、他施設からこちらに移った。決め手は猫との共存、「猫と過ごす時間が楽しくて、自分の家にいる感じがするんだ」と笑みがこぼれていたという。「ケアされることの多い障害者が、ケアする立場になる。自然と自立心や責任感が芽生えるとともに、人に手放された猫が人の役に立っている、それが何より誇らしい」と施設の菅原代表は話す。系列の施設が県内に6つあり、動物と共存しているのはまだ1つだけだが、今月中にも犬を迎える予定があり、2つに増えるとのこと。

他県でもセラピードックが障害者施設を訪問し、利用者が楽しく生活できるように支援したり、社

会復帰の足掛かりになるきっかけを提供するなど、調べてみる全国でいろんな活動をしている団体があることがわかった。精神障害者においては「セラピードックに会いに行きたい」という感情により、引きこもりが解消されたり、対人恐怖症を克服した利用者もいる。

(2022年2号 福祉ニュース障害者福祉
保護猫、入居者に癒しより抜粋)

三重県の動物愛護センター(あすまいる)でも、殺処分ゼロを目指す活動をしている。野良犬、野良猫を捕獲し、避妊、去勢手術をして、元の場所に戻す取り組みや、小学生を対象に、動物愛護教室の開催やイベント、ボランティア団体に委託しての譲渡会など、様々な取り組みにより、令和2年度は犬74匹、猫293匹の譲渡で沢山の命を繋ぐことができた。県内にもペット共存型のグループホームがあることもわかった。今後、各県にこういった施設が増えていくことに期待したい。

(三重県ホームページ・三重県動物愛護推進センターあすまいる 参照)

私自身も施設で暮らす男性のように、幼少期から動物とともに育っており、保護犬猫との出会いも沢山ありました。現在は3匹の猫と一緒に暮らしています。その中の1匹はちょうど数か月前の動物愛護週間に出逢いました。背骨の突起がみえるほど痩せこけ、皮膚もただれ、保護したもののこれから大変だなと感じましたが、先住猫にも何とか受け入れられ、ようやく家族の一員になることができました。

動物は、見ているだけ、一緒にいるだけで心が穏やかになり、障害者も健常者も別け隔てなく癒してくれます。なでしこもコロナ禍で面会もままならない状況・・・早く終息し、以前のような生活が待ち遠しいですね。動物との共生は難しいですが、日帰り旅行やいろんな行事が復活できた時、動物と触れ合う機会ができれば素敵だなと感じました。

(看護師：辻)

毎月発行の「福祉ニュース」に掲載されている記事の中から一つ選び、その内容や感じた事をリレー形式で載せていきます。

…… 皆様の善意のご寄付に心よりお礼申し上げます ……

令和4年3月から5月にかけて個人の方々よりたくさんのご厚意を賜りましたので紹介いたします。

(寄贈品)



補装具 4種類



テーブル

職員一同心より感謝いたします。ご寄付いただいた物資につきましては当施設にて大切に使用させていただきます。

◆◆◆◆◆ ご寄付をお願いいたします ◆◆◆◆◆

当施設では、皆様からのご寄付を受け付けております。施設に賜りましたご寄付は、当施設の利用者さんの日常がより充実したものになるよう職員一同大切に活用させていただきます。多くの皆様からのご支援を心よりお願い申し上げます。